

第 5 回 「川崎市学校評価事業運営委員会」 会議録

- 開催日時 平成19年7月19日（木） 9時30分～11時30分
- 開催場所 川崎市教育会館 第3会議室
- 出席者
- ・委員 村井委員、横山委員、松下委員、千々布委員、高木委員、宮嶋委員、中村（亮子）委員、藤田委員、杉田委員、鈴木委員、加藤委員、垣東委員、渡邊委員
 - ・研究協力校 川中島小学校、東小田小学校、南河原小学校、土橋小学校、中原小学校、久末小学校、有馬中学校、長沢中学校、川崎中学校、高津中学校、養護学校
 - ・事務局 中島、江尻、小松、佐藤（栄寿）、佐藤（利行）
- 欠席委員 白井委員、隅田委員、前島委員、中村委員
- 次第
- 1 開会のことば
 - 2 委員長挨拶
 - 3 委員・研究協力校紹介（資料1）
 - 4 議案
 - (1) 第4回学校評価事業運営委員会会議録の確認（資料2）
 - (2) 川崎市版学校評価システムモデルの作成等について
 - ①学校評価における「川崎らしさ」について（資料3）
 - ②川崎市版学校評価システムモデルについて
 - ③自己評価書・学校評価書について（資料4）
 - (3) 「学校評価」研究協力校の平成19年度の取組及び資料説明等（資料5 11校分）
 - (4) 川崎市学校評価事業運営委員会・研究協力校の今後の日程及び内容について（資料6）
 - 5 その他〔次回の日程等（別紙1）〕
 - 6 閉会のことば
- 傍聴者 1名
- 協議内容
- 1 委員長が挨拶を行った。
 - 2 委員と研究協力校、事務局が自己紹介を行った。
 - 3 議案
 - (1) 第4回委員会会議録について、（資料2）のとおり確認された。
 - (2) 検討事項
 - ①川崎らしい「川崎版学校評価システムモデル」の作成について
- 資料3、4の内容について、事務局が補足説明を行った。
- 委員長 議事録第4回学校評価事業運営委員会会議録については、意見がなければ承認する。
- 委員長 前回は、学校評価において川崎らしさとは何かという問題が検討された。川崎らしい問題については、一つは人権尊重教育を推進すること、もう一つは、学校推進会議・教育推進会議等従来の学校支援組織を利用していくことで確認された。教育委員会支援体制について具体的な内

容を説明してもらいたい。

- 事務局 教育委員会の支援体制として川崎は地区の担当指導主事・主管制度があり、定期的に学校を回っているので学校評価の中に取り入れることができるのではないかとご意見を受けながら協議を進めているところである。この件に関しては事業委員会というよりは、カリキュラムセンター、指導課など各部署と相談しながら今年度末には教育委員会の支援体制づくりを図っていききたい。
- 委員長 教育委員会支援体制は、特色の一つであるが体制について今後検討をするということである。学校評価における「川崎らしさ」を確認したいが、意見があったらお願いしたい。今日は協力校からいろいろ話を伺う中でもっと何かいいものがさらに出てくれば、付け加えていくという形で進めていきたい。教育委員会の支援体制については後日提案してもらいたい。学校評価システムのモデルについて、提案をお願いしたい。
- 事務局 昨年度は、この事業運営委員会と研究協力校のご協力、ご審議の中、「学校評価、教育活動の改善・充実・信頼される開かれた学校づくりを目指して」というリーフレットを作成した。今年度は、学校評価の取組が推進できるようなヒント、資料集のようなものを川崎市版学校評価システムモデルとして作成したい。プロット案として、（１）学校評価の目的。（２）学校評価の流れ。（３）自己評価。（４）外部評価とし、研究協力校の資料を基に、各項目に当てはめてモデル例を作成できればと思っている。既存の学校支援組織を生かした、外部評価委員会の設置、あるいはメンバー構成についても研究協力校からいただいた事例をまとめていきたいと考えている。また、研究協力校においては、各学校の学校評価についての研究の成果や今後の課題等について学校ごとにページを割り振り、載せる予定である。
- 委員長 モデルの作成の報告について何か意見をもらいたい。参考資料なのでそれぞれ検討していただきたい。
次にモデル案としての評価表について説明をお願いしたい。
- 事務局 自己評価書についても各学校それぞれ違っており、自己評価の指標についても色々な形で行われている。各学校で様々な内容で自己評価しているが、自己評価書および各学校で色々取り組んだ資料を提供し、外部評価をしてもらい、そのコメントをそこに入れる形で作成した自己評価書、外部評価書を公表するという形にしたらどうかと考えている。評価項目については、ガイドラインに示された10項目をもとに各学校で取捨選択し、特色に応じた独自の項目を追加するなどして、目標や指標を設定をすることが望ましいと考えている。研究協力校においてはこの様式を検討してもらい、修正した様式の中に協力校で自己評価書・外部評価書を作って提出していただければと思っている。また、参考資料の中に良い書き方をしているとか、学校が改善されたと読み取れるような事例とか、川崎らしさの一つである人権尊重教育がこんな視点で出ているというような書き方をしている研究協力校の事例を紹介し、各学校が自己評価書・外部評価書が作成できるような資料にしてもらえればと思っている。各学校の自己評価書・外部評価書については教育委員会に報告することやホームページに掲載することなどについても考えている。
- 委員長 評価書の具体的な使い方についての意見があればお願いしたい。
- 委員 中期及び長期の目標と言うところをどう考えるか。学校は、小学校6年間、中学校3年間子供たちは生活しているので、どのようなスパンの中で学校改善が行われるか具体的に小学校・中学校・養護学校の先生方が議論して考えていった方がいいと思う。

○委員 改善のプロセスについては、教職員の力量とも連動していく。どの学校も校内研究・研修を行い、努力を積み重ねることによって目標や達成がよりみえてくるのではないかと。さらに先生たちの取組みが評価されると信頼されていくというようになるのではないかと。各学校の運営計画は、研修・研究を整理をしていくと、どのように学校評価の改善につながっていくのか。ただ項目だけを改善しようとしてもなかなかうまくいかない。

○委員長 学校評価は、その学校のよさと課題を探すことも本来の形である。事務局から提案があったプロットと基本的なワークシートについての検討を頂いた。
次に、研究協力校の取組について具体的に報告をしていただきたい。

○研究協力校（川中島小学校）の取組

私の学校は、元気の出る学校評価とすることをうたっている。学校評価研究システムも外部評価研究会も進んでいる。学校評価については、今年度の資料を作る中で、前年度の学校評価を資料として改善をしていく部分については、外部評価の委員さん達と話し合いながら進めている。学校評価の中に地域・保護者が参画することはできたが、子どもたちの参画についてが課題となっている。外部評価委員会では、今年度、評価アンケートの項目や内容について一緒に考える作業をしている。アンケートの集約については、教職員の負担となり時間がかかることが課題となっている。今年度は、学校懇談会や学校説明会など、コミュニティとの共催という形で進めている。ホームページに前期公表をしている。細かい議事録等は公表していない。

○研究協力校（東小田小学校）の取組

外部評価委員会が中心となって学校評価を進めている。今年度は、年5回の外部評価委員会を計画をした。第1回は、学校教育目標、保護者用と児童用アンケート形式のものを提示し、中身の検討をお願いしている。運動会のアンケートについては保護者の方や色々な方に沢山書いてもらい、改善案を沢山もらった。今、グラフ化している。授業評価についてもカードを作り外部評価の委員の方々に授業参観をしてもらうことや保護者にも校内研究の案内を出して記名で書いてもらうような用紙を検討している。外部評価委員は、学校教育推進会議の委員をお願いしている。委員は町内会長、主任児童委員等の方々とPTAの三役。学校教育推進会議の子どもについては評価委員からはずれているが学校教育推進会議で意見を聞いている。

○研究協力校（南河原小学校）の取組

「輝け笑顔。明日に生きる学校評価」ということで取り組んでいる。本年度の重点目標は15個の重点ポイントを設けている。保護者には、各学年の懇談会、学校便り、PTA総会、学校説明会等を通じて説明している。教職員は運動会、集団下校などの項目について自己評価をしていく。保護者・児童は、運動会、授業参観、学校説明会に関することなどのアンケートを実施。学校便りや手紙で結果を連絡している。教職員と外部評価委員は、同一の学校評価シートを使用している。保護者は学校評価シートを使わず表現を少し変えて15項目について評価。子どもは、わかりやすい表現にしている。自己評価書は、教職員で作成し外部評価委員に見てもらい、改善策を考え作っている。外部評価委員の中には本校の卒業生も入っている。

○研究協力校（土橋小学校）の取組

学校評価のタイトルは「ともによりよい学校を創るための学校評価」とした。昨年度は、地域住民委員と保護者委員と教職員とで学校評価委員会を設置して進めた。今年度は、公募の委員や新聞社の方の保護者委員が入っている。今年度のキーワードは「評価協働」。学校運営協議会においても、昨年度の評価内容の検討と今年度の評価項目の検討をしている。学校教育目

標の達成に向けて、学年経営の目標、校内研究、事務経営、各学級の目標、それぞれの先生の自己目標を併せてP、D、C、Aのサイクルで考えてグループ目標の設定に今年は力を入れた。外部評価委員会のものと、どう併せていけばいいのかが今年の課題。評価項目については検討中。

○研究協力校（中原小学校）の取組

学校推進会議の子どもたちの意見など聞いて進めている。

○研究協力校（久末小学校）の取組

テーマは、「～みんなで支え合う、明るく元気の出る学校評価をめざして～」。学校評価の目的は、学校運営の改善、信頼される開かれた学校づくり、教育の質の保証と向上ということで捉えている。学校評価の方法としては自己評価、外部評価、教育委員会への意見の構築となっている。自己評価としては学校職員を中心として8月と2月に中間反省と年間反省を行っている。児童・保護者を対象とした学校評価のアンケートを5年前から実施。今年度は、土曜参観を初めて設けることにした。11、12月のオープンスクールや子どもたちフェスティバルを保護者に公開してアンケートの実施を予定している。外部評価は、協力校の中原小学校と連携を取り、外部評価委員として来てもらいたいと思っている。学校外部評価委員会は、1回目は7月9日の学習会、2回目は10月22日に予定。3月に第3回を開く予定。学校教育推進会議にも外部評価委員も入ってもらい前期と後期のアンケートを行っていく予定。

○委員長 今までの協力校の報告についての質問をお願いしたい。

○協力校からの質問

アンケートの集約の仕方と誰がアンケート集約しているのかと、業務過多にならないように工夫をしている点があったら教えてほしい。

○土橋小学校

保護者委員とか地域住民委員の方がいたのでそれぞれ手分けして集計してグラフを作るのが得意な方もいた。今年はもう少し手分けをしたいと思っている。

○東小田小学校

本校は校内の評価委員会の先生が集約しグラフ化している。

○南河原小学校

アンケートの取り方で選択する場合は帯グラフという形で示している。傾向をつかむということで出している。フリーの記述については学校だよりとかいろいろな懇談会で通じて伝えるようにしている。

○協力校からの質問

学校教育推進会議から外部評価委員会のかかわりで工夫している点を教えてほしい。

○東小田小学校

本校はコミュニティースクールも実施しているので町会長とか主任児童委員とか忙しい人が学校教育推進委員になっている。コミュニティーの方はPTAOB会の中からもなってもらっている。学校評価委員については従来ある学校教育推進委員に併せてお願いした。しかし学校教育推進会議には児童が入っていたので授業が終わる前に大人だけで学校評価推進委員会を開き、授業が終わった時点で子どもが参加し学校教育推進会議を行うようにした。

○川中島小学校

学校教育推進拡大会議としてPTA、地域、地域教育会議の方に集まってもらい、学校運営協

議会に発展的な移行を行った中で同じメンバーが継承している。

○研究協力校（有馬中学校）の取組

学校経営方針の本年度の重点目標は、豊かな社会性の育成と学習意欲の向上である。学校評価の概略と実践ポイントということでできるだけ教育課程説明会、学年学級懇談会、学校だより等で公開し説明していく。今年度の特徴は、公開授業を取り入れて先生方の授業の研修、授業改善に役立てたい。生徒のアンケートの結果では、授業の中で生徒の学習活動の部分でまだまだ少なく講義的な授業が多いということがわかった。保護者の方も授業について「生徒は真剣に授業に取り組み、理解しやすいといっている。」という改善点が示された。7月9日に千々布先生、カリキュラムセンター室長などの方に授業の参観を実施。、その後の研修で改善点などを付箋に記入し話し合いを行った。

○研究協力校（長沢中学校）報告

本校では自己評価を教職員による自分たちの自己点検ということでやっている。外部評価については生徒・保護者に対するアンケート調査で外部評価としている。生徒・保護者・教職員の考え方の相違点を明確にしていきたい。今年度から第三者評価者は4名準備している。第三者評価項目については文部科学省で出されているものを参考に本校に見合うように作成し、記入用紙も用意している。

○研究協力校（川崎中）報告

17年度から学校評価を開始。「川崎中学校の教育改革コンセプト」を作り、学校評価を中心に教育改革を進めている。学校教育目標を受けて「心の教育」、「基礎・基本の定着」「健康安全教育」「開かれた学校づくり」の4つの領域を柱として具体的フォーカスを探っていこうということで作った。18年度は、学校経営計画、学校教育目標から学校経営の4つの領域、中期経営目標、短期経営目標、具体的方策という形で学校評価を進めた。学校評価を柱とした学校経営を目指し、評価をフィードバックするしくみ作りということで学校改善に積極的に生かしてた。本校の特色は授業評価、特に授業改善を中心に目指している。授業評価を教育課程にフィードバックする。教育課程の評価を学校評価に結びつける。学校評価を学校改善に生かす方向で進めている。18年度は、英語・数学・国語の学習案内、生徒向けのシラバスを作った。19年度は、全教科作りたい。学校評価委員会は、18年度から立ち上げてる。生徒のアンケートは教科担任がやる。こ保護者のアンケートは学年でやっている。教職員は校長が担当してやっている。学校評価システムは中間評価、最終評価、外部評価と年3回公表している。課題は多くの保護者が授業参観に出席してもらうことである。

○研究協力校（高津中）報告

学校教育推進会議のメンバーに学校評価をお願いする。授業参観等でアンケート用紙を用意し感想を聞くことにした。校内で学校評価委員会を作り進めている。授業参観でのアンケートの自由記述は、学校便りに記載している。学校教育目標の向学、敬愛、忍耐、健康の4つに準じた点検内容を考え、保護者・生徒向けのアンケートを作成している。今後これからの方向性を見つけ、よい結果に結びつくような、学校運営をしていきたい。

○研究協力校（養護学校）報告

今までは保護者を対象に学校評価をやってきた。改善点としては、教師の指導力部分の指摘があったので、着任者には授業公開をしてもらっている。保護者の意見の中に交流に対して強い思いをもっていることが分かったので、地域の高津中学校、東高津中学校、高津高等学校の校

長先生方のご配慮の中で交流を進めてきた。今まで保護者のみアンケート調査を行ってきたが今年からは自己評価として教職員、外部評価として保護者、自分で答えることができる障害の軽めの生徒にアンケートをしていこうと思っている。第三者評価として見学された方、利用された方へアンケートをしていこうと考えている。子ども達のアンケートは、検討中である。アンケートの分析の仕方を客観性のあるものにしていきたい。

○委員長 ご意見、質問についてお願いしたい。

○委員 自己評価、外部評価、第三評価という言葉の定義についての確認。教育の主体である教師達によるものが自己評価、子ども達や保護者・地域の方々の意見を自己評価の資料、学校に全然関係のない客観的にとらえてくださる方達によるものを第三者評価して考えているということで共通理解を図りたい。また、子どもや保護者のアンケートは、自己評価の資料であることを考えたい。

○委員 それぞれの学校が学校評価のシステムを構築するかということと、アンケートをどう集計するのかということは、大事なことではある。付箋を使った評価において職員が自分の学校をどう感じているか出してもらい、体制化していくと学校の課題が先生方に自覚してもらうことにつながる。学校を改善するという観点を意識して取組んでいくことが必要。

○委員 外部評価は、学校の事情とか実情がなかなか理解してもらえない人に、ただ単にアンケートを出して答えてもらうだけでは、学校評価にはつながっていかないと思う。私の中学校では3つの学校がトライアングルにして、よその学校に行って、他の学校と自分の学校と比較するというを行っている。専門性が必要となる評価を取り入れることが大切であると思う。

○委員長 今後の日程及び内容が出ているので事務局説明をお願いしたい。

○事務局 9回目までの日程を計画している。11月と12月の2回の会議で川崎市版学校評価システムモデルの中の「川崎らしさ」をどのような形で出していくか検討したい。各学校の自己評価書・外部評価書を10月20日までに提出して頂きたい。また、学校教育推進会議と既存の組織を取り入れた外部評価委員会についてのデータも提出してもらいたい。2・3月は川崎市版学校評価システムモデル案を検討していきたい。研究協力校には3月にもう一度集り報告をして頂くことを予定している。

(3) その他 (次回日程等)

次回の日程 平成19年11月21日(水) 9時30分～11時30分

川崎市教育会館第3会議室

以 上